

会員だより

私は100年
早く生まれ過ぎた

私は若いころよく「私は100年早く生まれ過ぎた」と言っていました。100年後の世界がどんなものか想像もできませんでしたが、戦争が終わったとき私は19歳でした。当時の女性の地位と言ったら極端な男尊女卑、女



性に人権などありませんでした。結婚した友人らの話を聞くと、私には到底耐えられない世界でした。姑をはじめ婚家先での生活は我

慢、我慢の連続、夫に理解があればまだしもないときは、家事全般を文句を言われながらこなし、子供を作る道具とされるそんな生活を耳にすると到底結婚などする気にはなりません。それが極端な例だと今の人は思うでしょう。例外はあってもほとんどの女性はそうでした。今年配の女性に聞いてもみんな経験しているといえます。

レシピ 即席紀ノ川漬け

- 材料：大根(正味) 2Kg 白砂糖 550g 酒 200cc
酢 200cc 塩 140g(まぶし分含む)
- (1) 大根を水洗いし、皮つきのまま15cmくらいを太さにより二分割～四分割する。
 - (2) 分量のうちの塩少々を大根にこすりつけて、少し水気を出す。2時間くらい。
 - (3) 調味料を一度にまぜる。最初どろどろしているが、大根を混ぜ合わせて半日もするとなめらかになる。
 - (4) 春なら2日くらいしたら冷蔵庫で保管。2～3日もすれば食べられる。
 - (5) 酢が入って居るからか液を汚さねば1カ月以上保つ。
 - (6) 次から自分の好みの液を作ってください。
 - (7) 最近塩麴が流行っているの液を少し捨ててまぶす時もあります。(塩分控える)



最近新しい事を発見しました。宅急便で知り合いに送る時、(4)の時多すぎるたれ汁を別瓶で冷凍し、容器の中の紀の川漬けのたれを切り、冷凍液を先方で合わせてもらう。1日弱くらいでしたら大丈夫でした。

上村サト子さんから頂いたレシピで「即席紀ノ川漬け」作ってみました。美味しく漬かりました。

記・写真：大岡津奈子

大きなクスの

樹の下で・・・♪

新春早々大きな樹を見るのは実に気持ちが良い。高槻梶原の旧西国街道沿いにある一乗寺の市指定樹、樟である。樹齢800年、樹高30m樹周り8



記：牧戸富美子

幸い大きな企業に勤めていて、収入に男女差はなく首の心配もなかった私は親の嘆きも聞かず結婚しませんでした。戦争で多くの適齢期の男性を失ったこと、仕事が面白く辞めたくなかったこともあり。多くの友人にも恵まれました。30歳で家を出て、この上ない自由な生活を満喫し、自分の思うとおりに生きてきました。42年間勤めて卒業し、予定通りの年金暮らし。高齢者住宅で暮らしています。結婚したくない男女が増えているという昨今。やはり100年早かったのです。今私に悔いがないのは事実ですが、もし幸せな結婚が出来ていたら私にも違う人生があったかもしれませ



一乗寺 クスノキ樹

9mの左右均等な見事な姿が青空に突き抜けて聳え立っている。その上、樟は冬でも青々としているので、いつも新鮮な気持ちで湧き出る。「弁慶の駒つなぎ」という名前で、伝説があるらしいこと、樹齢もちよつと確かでない。この一乗寺は寺史によると1427年建立、当時の室町幕府に法華経布教の為、自説を唱えて投獄された上人がおられたとか、徳川の殿様の生母による寄進による。再建、破格の寺領を賜るなど、紀州徳川家の崇敬が高かったなど、その風格が今も維持されているか、数年前に来た時よりすべてピカピカである。以前春場所の頃、JR車窓から相撲部屋の幟が見えていたが、最近見なくなつた。



宮之川原 のっぽの カイズカイブキ

清水コミセン近くにある神服神社のヤマモモの樹です。一度も実をつけたことないと嘆く人がある。残念な事に雌雄異株で雄株、雌株だったらどれだけの実をつけた事かと。もう1本は宮之川原にあるのっぽの「かいずかいぶき」。この種の木は垣根にあつてこそそれらしき役割を持つが、のっぽばかりでは有難さを感じない。



神服神社 ヤマモモ雄株

ちなみに私の近辺にある市保護樹木を紹介しよう。どこかの生命保険が「大樹生命」に社名変更とか、名前倒れにならないことを願います。

記・写真：上村サト子